



2023年度

在宅医療研修アドバンスプログラム実習報告発表会開催

2024年5月8日(水)に2023年度在宅医療研修アドバンスプログラム実習報告発表会を開催しました。2023年度の在宅医療研修アドバンス



報告会の様子

プログラムは、医療法人社団都会 渡辺西賀茂診療所およびゆうホールディングスと本学の実習受入に関する協定に基づき4年ぶりに再開され、総合薬学研究B 実践薬学コース 地域医療ユニット履修学生と、探求薬学コース履修学生のうち希望者の計7名が参加しました。

本学では2016年度から5年次生対象の選択制プログラムとして在宅チーム医療の実習を行っており、参加学生は主に在宅医療や多職種連携の現場で10日間実習を行います。

薬学部5年次で全学生が実施する病院・薬局での実務実習は、指導薬剤師の下で主に薬を介した患者対応や他職種との関わりなどを学ぶ「薬剤師になるた

めの実習」である一方、本プログラムの目的は、様々な医療職指導者のもとで「一医療系学生として他職種の視点を知り、在宅チーム医療における薬剤師の役割を学ぶこと」です。本プログラムを通して、病院とは異なる環境下で、他職種と協働しながら地域で患者を支えていく医療を経験し、その中で薬剤師として何ができるかを考える機会となっています。

次頁では、実習参加学生2名にインタビューを行いましたので紹介します。



実習参加者の皆さん

CONTENTS

■ イベント

- 2023年度在宅医療研修
アドバンスプログラム実習報告発表会…………… 1

■ ご挨拶

- 就任・新任のご挨拶…………… 3

■ 特集

- 創立140周年記念特設Webサイト・記念ロゴマークについて…………… 8

■ お知らせ

- お知らせ…………… 6
- 京薬会だより…………… 7
- 2024年度試験日程について…………… 9
- 人事…………… 10
- Library News…………… 13
- 生涯教育センターからのお知らせ…………… 17
- 2025年度 京都薬科大学入学選抜概要…………… 18
- 2025年度 大学院入学選考概要…………… 19

■ コラム

- 卒業生からのメッセージ…………… 13
- 私の薦める、私の一冊…………… 14
- 学生相談室だより…………… 20

■ 報告

- 【寄稿】DIA Student Groupでの活動について…………… 11
- 本学の交通安全の取り組みについて表彰されました…………… 11
- 山科警察署と協力して自転車施設啓発活動を実施しました…………… 12
- 2024年度入学者選抜結果…………… 12
- 2023年度 授業評価集計結果の報告…………… 15
- 事務局お仕事紹介…………… 16
- 令和6年度科学研究費助成事業 採択状況…………… 21
- 【寄稿】2023年度関西大学Dリーグベスト15に選出されました…………… 22
- 受賞・掲載…………… 23
- 京都薬科大学奨学寄附金芳名録…………… 28

■参加者インタビュー

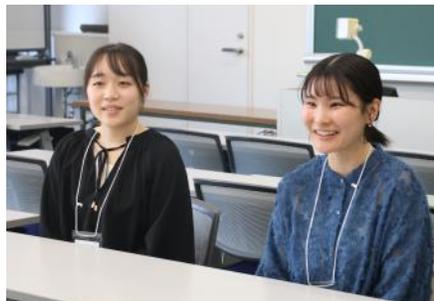
臨床薬学教育研究センター 6年次生 かとう ゆい 加藤 友唯

病態生理学分野 6年次生 さとう はるか 佐藤 晴夏

■研修に参加したきっかけ

加藤：実務実習では薬剤師の業務について学ぶことができましたが、他職種の業務や思い、着眼点などを理解することで薬剤師としての役割が明確になるのではないかと考えました。また、看取りも含めた在宅医療を学びたいと思いました。

佐藤：入学前から地域医療に興味があり、在宅医療に関わることでより深く理解できると思い、参加しました。研修前に先生からご紹介いただいた地元の地域医療にも参加させていただきましたが、地域の違いなども学ぶため、今回の研修にも参加しました。



左：佐藤さん、右：加藤さん

■10日間の研修を通して

加藤：医師、看護師、理学療法士、介護士、ケアマネジャーの方がチームとなっており、実際に他職種の方に同行させていただくことで現場の方がどんなことを意識しているのか間近にすることができて貴重な経験でした。特に患者さんやそのご家族の生活を中心に向きあう姿が印象的で、薬剤師としての服薬指導だけでなく、患者さんやそのご家族とのコミュニケーションも大切だと感じました。

佐藤：終末期の在宅医療に対するイメージが大きく変わりました。生きている時間を患者さんにとってより良い時間にするための医療やサポートをするためにチームで取り組んでいること、患者さんの今までの人生に寄り添いながら、患者さんのことを理解しようとする姿勢も学びました。

加藤：実際に患者さんと接する中で、聴診器での心音確認も体験させていただきました。薬剤師として薬を通して関わるだけでなく、フィジカルアセスメントの大切さも実感し、貴重な体験でした。

■印象に残っていること

加藤：終末期の患者さんの在宅医療に関わる機会があり、他職種の方が「死」に対する気持ちに向き合っとうやったら患者さんに生きる意味を与えることができるのか、穏やかに生きがいを持って過ごすためには何ができるのかを考えている姿が印象的でした。患者さんがどうしたいのか選択してもらい、それを決断するためにじっくり一緒に考えることも必要だと感じました。

佐藤：患者さんの自宅での在宅医療はもちろんですが、認知症の患者さんを受け入れている施設での実習もありました。「処方だけ見ると変わっていても、利用者さんの状況は日々変わる」という言葉が印象的で、患者さんと実際に関わる機会をいただけたことで、薬剤師として薬の提供だけでなく、患者さんの体調や困っていることを理解しようとする努力が必要だと思いました。

■今後の進路について考えたことや変化したことはありますか？

加藤：病院薬剤師を目指しており、在宅医療の現場を知っているかどうかで退院してからのサポートのイメージがしやすくなったと感じています。今回の研修で学んだ他職種の方の業務やそれぞれの視点も理解したうえで患者さんに合った治療ができるように薬剤師として取り組んでいきたいです。

佐藤：私は薬局薬剤師の終末期の患者さんへの関わり方について考えました。看取り後にもご家族と接する機会があることにも気が付きました。看取り後も含めて、地域全体でお互いを支え合える町を作るために、人と人とを繋ぐ架け橋のような薬剤師を目指したいと思います。

■後輩へメッセージ

加藤：他職種の仕事を見る機会は在学中も卒業してからもなかなかないと思います。薬剤師との違いだけでなく在宅医療を通じて地域医療に貢献することの大切さをぜひ体験してもらいたいです。将来の薬剤師にとって、きっと貴重な経験になると思います。

佐藤：私も実際に他職種の方がどのような仕事をしているか、学生だからこそ感じ取ることができた部分がたくさんあったように思います。在宅医療に関する知識だけでなく、薬剤師としての役割についても考えるきっかけになりました。

加藤：とりあえず参加してみようという気持ちが大事で、まずは一歩踏み出すことで自分の財産になると思います。

佐藤：実際、私は地域医療に興味があることを先生に伝えたことで地元の地域医療にも携わる機会をいただきました。興味のあることを周りに伝えたり、声に出すことで一歩踏み出すきっかけになると思います。

■最後に

「薬剤師である前に医療人」という考え方、これが今の薬剤師教育に必要なことだと考えます。令和4年改訂の薬学教育モデル・コア・カリキュラムで初めて「プロフェッショナリズム」が明記されました。ここで、薬剤師としてはプロであってもプロ意識がない薬剤師はプロですか？という疑問が湧きます。この研修に参加した学生さんたちは、薬剤師としての「プロ意識」について本プログラムを通して自分自身で考えイメージできるように成長していると発表会に参加して感じました。この気持ちを忘れずに、来年の国家試験に合格して現場で活躍できる薬剤師になってほしいと願います。

臨床薬学教育研究センター 講師 いまにし たかし 今西 孝至

就任のご挨拶



副学長

にしぐち こうじ
教授 西口 工司

本年4月1日付にて、副学長を拝命いたしました。副学長という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。甚だ微力ではございますが、赤路学長のご指示とご指導の下、本学の発展に尽力する所存です。皆様、ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

本学は、今年、創立140周年を迎えました。「愛学躬行」を建学の精神とし、高い志を有する優秀な人材を多く輩出してきました。薬局・病院で従事する薬剤師はもとより、大学や研究所で働く教員・研究者、製薬会社で活躍する研究者や医薬情報担当者、国家の政策を掌る官僚、さらには起業家など、多様

な領域で多くの人材が活躍するのが本学の伝統であり、特徴でもあります。

一方で、少子高齢化をはじめとする社会情勢の変化とともに、薬学教育及び薬剤師に求められる役割は大きく変わりつつあります。2006年から開始された6年制薬学教育を取り巻く環境も厳しさを増す中で、本学においても社会変革に対応した新たな展開が求められています。本学の教育と研究も時代と学問の変化に合わせて、益々進化する必要があります。2022年度から開始された本学における第4期中期計画の推進を支え、「選ばれ続ける大学」として伝統と進化を融合した「京薬ブランド」の発展に尽力する所存です。

在学生及び保証人の皆様、卒業生の皆様、法人関係者の皆様、さらには教育職員及び事務職員の皆様におかれましては、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



研究科長

ふるた たくみ
教授 古田 巧

この度、本年4月1日付で研究科長を拝命いたしました。私は、2018年に薬化学分野の教授として着任し、今年で在職7年目となります。これまでに、図書館長として運営に携わった2年間を含め、6年以上本学に在籍したことになりますが、まだまだ多くを学ぶ必要があると感じています。このような私が、前任の柴田研究科長から大役を引き継ぐことになり身の引き締まる思いです。

さて、私が専門とする有機合成化学領域で顕著なものかもしれませんが、昨今の薬学領域では、教員のなり手不足が危惧されるようです。薬学の素養と博士号を併せ持つ人材は、大学教員はもとより多方面で主導的な活躍が期待されますが、そのような人材の育成がいよいよ困難になりつつあります。一方、本学では博士課程への進学者数がほぼ毎年定員を満し、この風潮をものともしない潜在力を感じます。このポテンシャルを最大限に伸ばし、本学大

学院が目標とする「高度な学識と研究力を有し国際的に活躍できる基礎および臨床薬学研究者の育成」を推し進めることで、有為な人材の輩出に貢献したいと考えています。

翻って、この人材の卵である大学院生の皆さんには、学識や研究力の向上、学会発表・論文作成などを通じたプレゼン力、研究をまとめ上げる構成力の涵養、英語力のレベルアップなどの課題に向上心をもって取り組んでいただきたいと思います。これらの研鑽と同時に、基礎か臨床かなど研究領域のいかにかわらなく、サイエンスの世界にどっぷりと浸かり、研究を純粋に楽しんでいただきたいと思います。もちろん、後輩学生の指導や、自身の研究テーマ以外のサポートなどにも時間を割き、将来指導的立場に立つ際の糧にしたいと思います。それでも、大学院生の時代は、自分自身の手でサイエンスの深淵に触れ、発見の感動を真っ先に味わうことができるかけがえのない貴重な時間です。科学上の新たな発見や出会いに感動しつつ、学術の進展に貢献する素敵な時間を皆さんが過ごせるように、本学職員の皆様とともに全力でサポートする所存です。一緒に努力していきましょう。



教務部長

さいとう ひろゆき
教授 齋藤 博幸

本年4月1日付で教務部長を拝命いたしました。これまでの2年間は副学長兼教務部長として、主に本学6年制カリキュラムの改訂や薬剤師国家試験対策を含む学修支援の強化などに取り組んで参りました。今年度からはいよいよ新カリキュラムの実施が始まりますが、引き続き教務部長として本学の教育研究の発展に微力ながら尽力する所存ですので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

本学では、建学の精神である「愛学躬行」、すなわち、自ら学び、考え、実践する、という精神に基づき、薬学のみならず多様な領域において活躍できる人材の育成を教育の目的として掲げ、2006年の薬学6年制移行後も多方面に多くの人材を輩出してきました。今年度からの新カリキュラムは、令和4年度改訂版薬学教

育モデル・コア・カリキュラムの内容に十分対応しつつ、本学独自の特色ある6年制薬学教育をさらに発展させていく基盤となるものと確信しています。

新カリキュラムでは、これまで通り語学教育やヒューマンズ教育を充実させつつ、一般教養科目群「人と文化」は1年次から3年次前期までの学年をまたいだ期間に自由に履修できるようになります。また、薬学専門科目では3年次後期～4年次前期に科目発展型選択科目群を、6年次前期に実践的・科目横断型選択科目群を新たに配置し、学生自身の興味や進路に応じた科目履修ができるようになっています。社会の多様化と変化に対応できる力を醸成するための本学独自のカリキュラムの展開に向けて、教職員皆様方のお力添えを頂きながら取り組んでいく所存です。

「学ぶ」とは、単に所有する知識や情報、技術を増やしていくことではなく、自分を開き、自己を刷新し、学んだことによって学ぶ前とは別人になることと言われます。学生の自主的な学びを支援することで、一教員として学生自身の成長を見守っていききたいと思っています。今後とも皆様のご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。



学生部長

さいとう たけし
教授 佐藤 毅

本年4月1日付で2期目の学生部長を拝命いたしました。学生部委員会、学生課の皆さんと共に、本学に学ぶすべての方々にとって学生生活が実りあるものとなるように、そしてまた本学が更により良くあるように、役割に努めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

本学学生の皆さんは、薬学を背景として医に携わる専門家の一角を担うべく学びに取り組まれていると思います。学部、大学院での学びを修められた後、社会での活躍のあり方は様々であると思われまますが、各々の場での活躍に向けた専門家としての基盤を確立することが、本学学生の皆さん共通の目標

と思われまします。そのために、大学での学びには、自ら独立した姿勢(自立)と、自らを律する姿勢(自律)が求められます。これらは確かに重要です。そして、同じくらい重要なことは、嬉しさ、悲しさ、困惑等の感情や考えを、然るべき時、然るべき相手に伝えること、また逆に それらの言葉を受け止めることです。学生生活において、何度も体験することであると思いますが、これは、おそらく、簡単なことではありません。

本学には、学生生活上困った時に相談できる複数の場が設けられています。学生課、学生相談室は、それら複数の場の中のひとつです。学生の皆さんにはこのことを、忘れないで頂きたいと思います。

専門性の高い教育・研究を実践する京都薬科大学において学ぶ学生の皆さんが、本学で存分に学びの時を過ごし、社会の中で専門家として活躍できるよう、微力ながら尽力したいと思います。ご関係の皆様には、ご指導賜りたくお願い申し上げます。



進路支援部長

ふじむろ まさひろ
教授 藤室 雅弘

本年4月1日付で進路支援部長を拝命いたしました。学生の皆さんが希望する進路を実現するために、進路支援課ならびに進路支援部委員会の教職員の方々と共に、その役目を果たしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

本学の卒業学生の進路は、企業、病院、薬局、行政、そして大学院進学などですが、その特徴は、薬局への就職が多くを占める全国の私立薬学部とは異なり、企業、病院、薬局への毎年の就職がそれぞれ約3割であることです。また、企業と一口に言っても、本学学生の進路は製薬、化学、食品、医薬品卸、化粧品系企業の他、商社やコンサルティングなど多岐にわたります。これは、学生の皆さんには進路選択に様々な選択肢とチャンスがあるということです。いずれにしても人々の健康や生活の安全に関わっていく仕事です

が、どの進路を選ぶか悩むかもしれません。ですから、できるだけ早い時期から自らの進路について考えるとよいでしょう。そして、希望する職種が定まったら、その仕事に就いた自分の将来の姿を想像してみてください。就職することがゴールではありません。その先で自分がどのような形で社会に貢献できるのか、そのためには今、大学でどんな知識や技能を身に付けておく必要があるのかを考えてみてください。おのずと今なすべきことが見えてくるはずです。決して妥協することなく真に希望する進路を見つけ、その実現に向けてしっかりと準備し挑戦してほしいと願っています。

進路支援課では、各種職種の人材ニーズや採用計画など最新の情報を常に収集・分析を行い、皆さんの相談に応じられるよう準備しています。また、各職種の第一線で活躍する本学卒業生や医療関係者を講師に招いたセミナーや説明会、採用担当者によるガイダンスなどの様々なキャリア支援プログラムを用意しています。さらに履歴書やエントリーシート作成のアドバイス、面接対策などの就職活動のための個別のサポートも行っています。どうか学生の皆さんはこれらのサポートを存分に活用し、希望する進路を実現してください。私たちは常に全力でサポートします。

新任のご挨拶



薬学教育系
教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター
きただ のりあき
教授 北田 徳昭

2024年4月1日付で、臨床薬学教育研究センター教授を拝命いたしました。私は、1991年に本学薬学部を卒業後、大学院修士課程医療薬学コースに進学し、京都大学医学部附属病院（京大病院）にて薬物動態研究を行いました。修士課程修了後、宝塚市立病院、神戸市立医療センター中央市民病院及び京大病院において、病院薬剤師として勤務してまいりました。一方、2005

年から本学博士課程（社会人）に在籍し、2008年に博士（薬学）の学位を取得しました。

この30年間で、本邦での医療における薬剤師の業務は大きく変化しました。すなわち、調剤を中心とした対物業務から、患者を中心とした対人業務へパラダイムシフトすることとなりました。その中で私は、特にがん領域を中心に、臨床業務を行いながらクリニカルエビデンスの構築、若手薬剤師や薬剤師レジデントの教育及び関連学会での専門薬剤師の養成にも関わってまいりました。

浅学菲才の身ではございますが、長年にわたる臨床経験を活かし、教職員の方々と連携して、未来の医療を担う学生の皆さんに向き合いながら、本学の発展のために尽力してまいりたいと存じます。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



分析薬科学系 代謝分析学分野

にしとう ゆきな
助教 西藤 有希奈

2024年4月1日付で、代謝分析学分野の助教に着任致しました。私は、2013年に同志社大学生命医科学部を卒業後、京都大学大学院生命科学研究科に進学し、2018年に博士（生命科学）を取得致しました。その後、本学の分析薬科学系代謝分析学分野にて日本学術振興会特別研究員PDを経た後、2022年より京都大学大学院生命科学研究科にて特定助教として2年間研究・教

育に従事し、この度本職を拝命致しました。

私は、必須微量元素元素である亜鉛に着目し、生体内での亜鉛の恒常性がどの様に維持されているかについて、亜鉛輸送体の機能に着目し研究を行って参りました。着任後は、亜鉛に留まらず、生命金属間の相互作用に着目しながら、金属恒常性維持機構の破綻に起因する様々な疾患の発症のメカニズムの解明に繋がる研究を展開していく所存です。

浅学の身ではありますが、教育と研究を通じて本学の発展に貢献できればと思っております。ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



医療薬科学系
薬剤学分野

こばやし ゆうき
助教 小林 勇揮

2024年4月1日付で薬剤学分野の助教として着任いたしました。私は本学の6年制課程を卒業後、2024年3月に京都大学大学院を修了し、現職に着任いたしました。研究では細胞外小胞と呼ばれるナノサイズの粒子に焦点を当て、「体内での細胞外小胞の動きを追跡すること」や「特定の性質を有する粒子集団の解析と生産性の改善方法の開発」など体内動態や製

剤応用の観点から研究してきました。日々の積み重ねが研究を形作ります。学生の好奇心と探究心を引き出し、自信を持って討論できる人材を育てたいと思っております。皆様と新たな知識の発見と成長を築き上げることを心から願っております。

私の先輩方や同僚たちも本学の教育課程を経て活躍しており、皆様もそのような素晴らしい活躍をする人材になれるよう、微力ながらも本学の更なる発展に貢献していきます。今後とも皆様のご指導とご鞭撻を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



事務局
庶務課

わたなべ ひろと
課長 渡辺 裕人

2024年4月1日付で庶務課長に採用されました。私はこれまで国家公務員として文部科学行政に42年間携わってまいりました。

主に初等中等教育の分野で外国語教育、幼児教育、特別支援教育、学習指導要領の改訂を担当し、総務省と厚生労働省にも出向した経験があります。高等教育機関では4つの教員養成系大学に在職して、

全国1位の教員採用率をめぐって毎年の他大学との競争に汗をかいていました。

出身は福岡県北九州市です。おいしいものを食べることや趣味の秘湯めぐりと車の運転、そして家族との団らんで疲れた身体をリフレッシュしています。

私立大学での勤務は初めてですが、これまでも心がけてきた「大学が少しでも良くなる」ことを、組織としてこれからも実践していきたいと考えています。微力ですが、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いたします。

News お知らせ

庶務課

■ 2023年度 卒業証書・学位記（学士）及び学位記（博士）授与式

2023年度卒業証書・学位記（学士）及び学位記（博士）授与式を、2024年3月16日（土）午前10時から創立130周年記念館で挙行了しました。薬学部 薬学科406名に卒業証書・学位記（学士）、大学院 薬学専攻博士課程10名に博士（薬学）及び課程によらない博士2名に博士（薬学）の学位記が修了者全員に赤路学長から授与されました。

式終了後13時から創立130周年記念館において、コロナ禍で中止していた京薬会主催の「卒業記念祝賀会」が開催されました。職員をはじめご父母の皆様が、卒業生の新しい門出を祝いました。



赤路学長の式辞

■ 2024年度 入学宣誓式

2024年度入学宣誓式を、2024年4月1日（月）午前10時から創立130周年記念館で挙行了しました。2024年度新入生数は、薬学部薬学科376名、大学院 薬学研究科薬学専攻博士課程11名、薬科学専攻博士前期課程1名でした。今年の入場制限を撤廃し、会場は晴れやかな式にふさわしい賑わいを取り戻しました。



入学宣誓式の様子

NEWS 京薬会だより

1. 卒業記念祝賀会、京薬会入会歓迎会

令和6年3月16日（土）に挙行された卒業式・学位記授与式では卒業生の皆さんに京薬会長から祝辞、京薬会誌と京薬会活動案内をお渡するとともに、5年ぶりの祝賀会を教育後援会の協賛により創立130周年記念館で従前のように盛大に開催することができました。また、卒後50周年会員（昭和49年卒）から大学への奨学金寄附の目録贈呈が行われました。



2. 代議員定時総会の開催

令和6年5月25日（土）に2024年度代議員総会がハイブリッド形式で開催され、全国から166名の代議員等が参加しました。新たにスタートした卒業生ネットワーク構築に向けた「京薬会リンク事業」等今年度の同窓会活動等について熱心に審議が行われました。また、名誉会員京薬会長表彰のほか、理事長、学長のご臨席のなか大学の近況報告や5年ぶりの懇親会で盛会裏の総会となりました。

京薬会リンク事業については、
京薬会Webサイト（URL：<https://www.kpu-aa.com/project/kpualink/>）又は
右記QRコードからご覧ください。



3. 歴史資料室だより

本年が京薬創立140周年であり、また京薬（京都私立独逸学校）創立者たちの恩師ルドルフ・レーマンが1914（大正3）年2月4日に東京で亡くなってから110年となります。以下は、関連企画です（予定を含む）。

★『愛学躬行歴史資料室レター』No. 2、No. 3を発刊しました★

レーマン関係の記事を掲載した『愛学躬行歴史資料室レター』を発刊しました。

京薬会のWebサイト（右のQRコード）から閲覧、ダウンロードできますので是非お読み下さい。

No. 2 「ルドルフ・レーマンの初回雇用契約書からわかること」

No. 3 「ルドルフ・レーマンの家族とお雇いドイツ人教師たち」



★連続企画展「ルドルフ・レーマンの京薬の創立者たち」開催★

「PartI ルドルフ・レーマン 第1章 大阪川口居留地のレーマン兄弟／第2章 レーマン兄弟の来京」を終え、6月中旬より「第2章 京都でのルドルフ・レーマンの事績」（仮題）を開催予定です。展示場所は育心館3階の愛学躬行歴史資料室です。詳しくは、京薬会のWebサイト上にアップします。

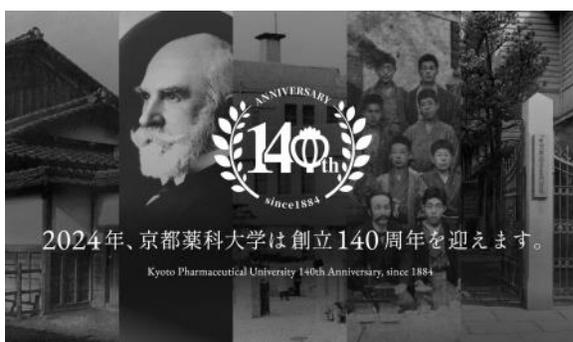
創立140周年記念特設Webサイト・記念ロゴマークについて

本学は2024年4月に創立140周年を迎えました。今回、伝統ある本学の歴史とさらなる発展を社会へアピールすることを目的として、「創立140周年記念特設Webサイト」および「記念ロゴマーク」を制作しました。今後は2034年に迎える150周年に向けてより一層の発展を目指していきます。

企画・広報課長

Feature article.

■ 特設Webサイト



大学公式Webサイトのバナー



140周年記念特設Webサイト

今回開設した特設Webサイトでは、理事長・学長メッセージのほか、「140年の歩み」と題し、創立当時の学内写真を公開。先人たちの築いてきた140年の歴史を感じられるとともに、卒業生にとっては学生時代を振り返ることのできるWebサイトになっています。

また、「京都薬科大学の今とこれから」も掲載し、重点的に進めている取り組みも紹介しています。ぜひご覧ください。



特設Webサイト内「140年の歩み」



特設Webサイト内「京都薬科大学の今とこれから」

特設Webサイト：
<https://www.kyoto-phu.ac.jp/140th/>



■ 記念ロゴマーク



本ロゴマークは本学校章のモチーフである「ケシの実」を140周年の「0」と見立て、その周りを「栄光」の花言葉を持つ月桂樹で囲うことで、優秀な人材を社会に送り出してきた実績とその偉業を表しています。

2023年10月2日（月）～2023年11月30日（木）に在学生・卒業生・本学教職員・元専任教職員を対象とした公募を実施しました。87件の応募の中から学内会議および最終学内投票を行い、本学薬学教育研究センターの前納伊吹さんのデザイン案に決定しました。また、目録として最優秀賞の賞金が贈られました。

前納さんのコメント

この度は、140周年記念ロゴデザイン案を採用していただき深く感謝しております。長い歴史を刻むこの節目に、皆様の益々のご発展を心よりお祈りしております。

その案をもとに完成した記念ロゴマークは本学Webサイトに使用するとともに本学職員の名刺にも使用しています。



目録贈呈式にて
(左：木曾理事長、右：前納さん)

■ 最後に

本学では創立150周年への飛躍に向けて、これからも変化を恐れず、積み重ねてきた歴史と伝統をさらに前に進めてまいります。

今後も引き続き、皆さまからの温かいご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

NEWS 2024年度試験日程について

教務課

2024年度試験日程については下表のとおりです。シラバスをよく読み、各学年とも進級・卒業要件を確認して受験してください。再試験の受験手続きはWebで行います。必ず指定の期間に手続きを行ってください。Webシラバス内にある「学修の手引き」には、試験制度の詳細が掲載されていますので、よく読んでください。なお、スケジュールは変更になる可能性がありますので、最新情報はmanabaでご確認ください。

試験	試験期間	受験手続期間	合格発表
2024年			
1～4,6年次生 前期試験	7月18日(木)～7月29日(月)	—	8月8日(木)～8月25日(日) Webによる公開
2～4年次生 前年次科目再試験	8月26日(月)～8月29日(木)	4月12日(金)～4月14日(日)	10月1日(火)～10月15日(火) Webによる公開
6年次生 前期再試験Ⅰ	8月26日(月)～8月29日(木)	8月8日(木)～8月15日(木)	9月10日(火)～9月12日(木) Webによる公開
1～4年次生 前期科目再試験	8月30日(金)～9月6日(金)	8月8日(木)～8月15日(木)	10月1日(火)～10月15日(火) Webによる公開
6年次生 前期再試験Ⅱ	9月24日(火)～9月25日(水)	9月10日(火)～9月12日(木)	10月1日(火)～10月15日(火) Webによる公開
4年次生 薬学共用試験 OSCE本試験	12月14日(土)・12月15日(日)	—	発表方法についてはmanabaで通知します
2025年			
6年次生 アドバンスト薬学本試験	1月7日(火)・1月8日(水)	—	1月15日(水)～1月19日(日) Webによる公開
4年次生 後期試験	1月8日(水)～1月10日(金)	—	1月22日(水)～1月31日(金) Webによる公開
1～3年次生 後期試験	1月14日(火)～1月22日(水)	—	2月4日(火)～2月11日(火・祝) Webによる公開
4年次生 薬学共用試験 CBT本試験 ※教務課より指定のいずれか1日を受験	1月16日(木)・1月17日(金)	—	発表方法についてはmanabaで通知します
6年次生 アドバンスト薬学再試験	1月23日(木)・1月24日(金)	1月15日(水)～1月17日(金)	卒業査定会終了後 2月13日(木)～ Webによる公開
4年次生 後期科目再試験Ⅰ	2月4日(火)～2月6日(木)	1月22日(水)～1月26日(日)	2月17日(月)・2月18日(火) Webによる公開
1～3年次生 後期科目再試験	2月19日(水)～2月28日(金) ※20日(木)を除く	2月4日(火)～2月9日(日)	進級査定会終了後 3月13日(木)～ Webによる公開
4年次生 前期・後期科目再試験Ⅱ ※20日(木)を除く	2月19日(水)～2月28日(金) ※20日(木)を除く	【前期科目】 1月22日(水)～1月26日(日) 【後期科目】 2月17日(月)～2月18日(火)	進級査定会終了後 3月13日(木)～ Webによる公開
4年次生 薬学共用試験 CBT追・再試験	3月3日(月)予定	—	発表・手続き方法についてはmanabaで通知します
4年次生 薬学共用試験 OSCE追・再試験	3月6日(木)予定	—	発表・手続き方法についてはmanabaで通知します

採用

薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 教授 北田 徳昭
(2024. 4. 1~2034. 3. 31)
分析薬科学系代謝分析学分野 助教 西藤有希奈
医療薬科学系薬剤学分野 助教 小林 勇揮
(以上2024. 4. 1~2029. 03. 31)
事務局庶務課 課長 渡辺 裕人
(2024. 4. 1付)

薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 特命教授 四方 敬介
薬用植物園 契約専門職員 平井 隆子
(以上2024. 4. 1~2025. 3. 31)

配置換

事務局庶務課 課長補佐 谷垣 朱美
(兼) 事務局企画・広報課 (前 事務局企画・広報課)
事務局調達検収室 主事 西村 浩子
(前 事務局庶務課)
事務局教務課 事務員 金寄 茜
(前 事務局調達検収室)
(以上2024. 4. 1付)

任命

副学長 臨床薬学分野 教授 西口 工司
教育研究総合センター所長
臨床薬学分野 教授 西口 工司
研究科長 薬化学分野 教授 古田 巧
教務部長 薬品物理化学分野 教授 斎藤 博幸
学生部長 一般教育分野 教授 佐藤 毅
進路支援部長 細胞生物学分野 教授 藤室 雅弘
図書館長 薬物治療学分野 教授 加藤 伸一
バイオサイエンス研究センター長
病態生化学分野 教授 秋葉 聡
創薬科学フロンティア研究センター長
薬品化学分野 教授 大石 真也
薬学教育研究センター長
薬学教育研究センター 教授 細井 信造
臨床薬学教育研究センター長
薬物動態学分野 教授 栄田 敏之
情報処理教育研究センター長
情報処理教育研究センター 教授 藤原 洋一
学生実習支援センター長
情報処理教育研究センター 教授 藤原 洋一
生涯教育センター長
臨床薬剤疫学分野 教授 村木 優一
薬用植物園長 生薬学分野 准教授 中村 誠宏
分析薬科学系長
薬品物理学分野 教授 斎藤 博幸
(以上任期：2024. 4. 1~2026. 3. 31)

分野主任 公衆衛生学分野 教授 中山 祐治
(2024. 4. 1付)
臨床薬理学分野 教授 古田 巧
(2024. 4. 17付)

再任

医療薬科学系薬物動態学分野 教授 栄田 敏之
(任期：2024. 4. 1~2026. 3. 31)
基礎科学系健康科学分野 准教授 長澤 吉則
基礎科学系一般教育分野 講師 岸野 良治
薬学教育系教育研究総合センター
学生実習支援センター 助教 高尾 郁子
統合薬科学研究施設
共同利用機器センター 助教 扇田 隆司
(以上任期：2024. 4. 1~2029. 3. 31)

契約期間更新

事務局庶務課 契約専門職員 坂口 義美
事務局研究・産学連携推進室
契約専門職員 武野 薫
事務局実務・生涯教育課 契約専門職員 高島 一枝
(以上契約期間：2024. 4. 1~2025. 3. 31)

退職

生命薬科学系公衆衛生学分野 教授 渡辺 徹志
病態薬科学系薬理学分野 准教授 藤井 正徳
医療薬科学系薬剤学分野 准教授 勝見 英正
生命薬科学系微生物・感染制御学分野
助教 鴨志田 剛
医療薬科学系薬剤学分野 助教 森下 将輝
事務局庶務課 課長 砂田 真也
薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 特命教授 山内 一恭
(以上2024. 3. 31付)

5年次生 岡本 奈々

DIA (Drug Information Association) は、世界的な医薬品開発に関する非営利団体であり、その日本支部がDIA Japanです。会員には、アカデミアや製薬企業、CROに勤務している方々、医療従事者などの幅広い業界の人がいます。DIAは医薬品開発に関する情報の交換や知識の共有を促進し、新薬の開発や規制、臨床試験、医療機器、薬事法規制などに関する最新の情報を提供することを目的としています。また、医薬品開発業界のトレンドや最新の技術に焦点を当てた勉強会やイベントを通して、参加者が最先端の知識を得る機会を提供しています。DIA Japanの学生組織であるDIA Student Groupは、学生が医薬品開発に関する知識を習得するためにイベントを開催しています。

私は4年次生の8月に大阪で開催されたDIA Student Group関西 第2回勉強会で、他大学の学生と2人で司会を務めることになりました。DIA Japanについて私は大学の進路支援課からの案内を通じて知りました。私は医薬品開発業界の様々な職種についての知識を深めたいと思い、第1回の勉強会に参加しました。そこで知り合った他大学の学生に誘われ、学生代表として第2回の勉強会の司会を担当することになりました。勉強会を開催するにあたり、DIAの方々とは度々ミーティングを行いました。どのような学生を対象とするか、その対象となる学生は何を知りたいのかについて考えて適切な講師を選ぶことに力を注ぎました。DIA会員の世話役の皆様は私たち学生代表の意見を積極的に聞いてくださり、その結果、学校のカリキュラムでは学べない実務経験のある方から得られる知識を提供することを目指しました。このため、CRA、CRC、PMDA、PV（ファーマコビジランス）、DM（データマネジメント）の方々に講演をしていただくことになりました。勉強会当日は、それぞれの職種の方々が仕事内容について講演していただきました。この勉強会はインターンシップのようなものではないため、参加した学生は気軽に質問することができる環境でした。私が一番良かったと思う点は、企業を超えた会員ならではの視点を知ることができたことです。

印象に残った質問の一つに、「PMDAが行う医薬品の審査、承認の期間についてどう思いますか。」というものがありません。この質問に対する回答は、製薬企業とPMDAの双方の視点から述べられました。製薬企業に勤めている方は審査期間の短縮を求める一方で、PMDAの職員は審査の期間の必要性について述べていました。今回のような機会は学生にとって貴重だと思いました。異なる立場からの回答を通じて、職種ごとに医薬品開発に対する考え方や感じ方が異なることが理解でき、大変有意義な体験でした。

また、DIA Japan理事長の中森省吾さんが京都薬科大学のご出身です。他の会員の方にも京都薬科大学出身の方がいらっしゃいました。自分と同じ出身大学の方がグローバルに医薬品業界で活躍されていることを知ることで、活躍できる可能性を感じ、私にとって大きな励みとなりました。5年次生になり、企業説明会やインターンなどの就職活動や病院・薬局実習を通して、いろいろな方からお話を聞く機会があると思います。これらの経験から様々な業界、職種について理解を深め、自分の進路について前向きに考えることができればと思います。



勉強会の様子

本学の交通安全の取り組みについて山科警察署より表彰されました

本学の交通安全に関する取り組みについて2024年4月9日（火）に山科警察署から表彰されました。

本学では学生が「ちゃりヘルひろめ隊」として、山科警察署と協力して全国交通安全運動やラジオで活動を行っています。これらの活動を通じて交通事故防止に尽力したとして本学職員が表彰式に参加しました。

山科警察署と協力して自転車施錠啓発活動を実施しました

Report

2024年6月4日（火）に山科警察署の方と本学自治会学生による自転車施錠啓発活動を実施し、施錠の呼びかけとともにうちわを配布しました。



2024年度入学者選抜結果

Report

入試課

2024年度入学者選抜結果について、志願者数および合格者数は表の通りです。2024年度の志願者数は前年比22名増加し、2,014名となりました。

	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数	実質倍率
学校推薦型選抜 (指定校制)	50名	54名	54名	54名	1.0
学校推薦型選抜 (一般公募制)	90名	260名	104名	104名	2.5
一般選抜A方式	45名	826名	398名	73名	2.1
一般選抜B方式	170名	847名	369名	140名	2.2
一般選抜C方式	5名	27名	15名	4名	1.8

なお、2025年度入学者選抜は、一般選抜において下記のとおり変更となります。

選抜方式		予定 募集人員	教科	科目
現在の名称	変更後の名称			
A方式	共通テスト利用前期*	45	国語	国語[近代以降の文章のみ]
			数学	数学①(「数学I・数学A」) 数学②(「数学II・数学B・数学C」)
			理科	化学[必須]、物理・生物から1科目選択
			外国語	英語(「リーディング」と「リスニング」)
C方式	共通テスト利用後期*	5	数学	数学①(「数学I・数学A」) 数学②(「数学II・数学B・数学C」)
			理科	化学
B方式	一般選抜前期(3教科型)	150	数学	数学I、数学II、数学A、数学B(数列、統計的な推測)、 数学C(ベクトル)
			理科	化学基礎、化学
			外国語	英語(英語コミュニケーションI、英語コミュニケーションII、英語 コミュニケーションIII、論理・表現I、論理・表現II、論理・表現III)
新規	一般選抜後期(2教科型)	20	数学	数学I、数学II、数学A、数学B(数列、統計的な推測)、 数学C(ベクトル)
			理科	化学基礎、化学
			外国語	英語(英語コミュニケーションI、英語コミュニケーションII、英語 コミュニケーションIII、論理・表現I、論理・表現II、論理・表現III)

※科目名については大学入学共通テストの実施科目名を表示

※一般選抜後期(2教科型)は3教科のうち、2教科を選択し解答する

詳細は本学Webサイトをご覧ください。

https://www.kyoto-phu.ac.jp/exam_information/entryinfo/new_examination2025/



岐路で迷う人に

もりかわ たかゆき
森川 貴之



2020年 学部卒業
(薬用植物園)

株式会社栃本天海堂 福知山工場
医薬品製造管理者



ありがちな高校時代の話ですが、私は文理の成績に特に差が無く、進路に悩んでいました。好きな分野という日本文学や言語学でしたが、現代文の先生に相談すると「それを活かせるような就職は難しいし、生計を立てられる研究者になるのはもっと難しい」と言われ、当時はリーマンショック後だったこともあり、穏当に資格が取れる学部を探しました。

そんな経緯で大学に入ったので、在学時の授業で「なりたい薬剤師像」を書く際も、尤もらしい嘘で紙幅を費やすのが関の山でした。「稼ぎたい」以外の意図を持たずに薬学生として過ごせるような人間だと思っていたのですが、割り切れそうもないことに入学後に気づき、在学中や卒後のことを不安視するようになりました。偶然ですが、薬用植物園の存在を知ったのは、その胡乱な時期で、サイクリング部の先輩から教えてもらい、研究室として在籍可能ということも知りました。

研究室選択の時期になり、いわゆる薬学生らしい生活から離れようと思った私は、薬用植物園を第一希望で出し、配属となりました。「午後くらいは外に居たい」、「グラフではない実体のあるモノを扱いたい」という動機で入った私ですが、普段の農作業から偶の見学会まで、全てが楽しく刺激的で、やっと大学に入った意味を見つけれられた時間でした。自然観光をしても「山は土の塊。川は水が流れている」以外の感想が無かった中高生時代から、約3年でここまで感性が変わるとは自分でも思いませんでした。

配属の半年後には、将来的に薬用植物に関した仕事に就きたいとまで思うようになり、月岡淳子先生に相談しました。その際、松田久司先生(現 本学名誉教授)の助言もあり、成育記録だけでなく、成分分析までを含めた卒論を執筆することとなり、生薬学研究室の方々にも助けていただきました。

就活では天然資源の素材探求や商品開発を行う会社も廻ったのですが、最終的には(株)栃本天海堂の福知山圃場で、薬用植物の種苗管理をすることになりました。また、2年前からは同・福知山工場で医薬品製造管理者を主な仕事として、圃場の方はお手伝いとして続けています。法規の授業を受けていた時は想像すらしていなかった現職ですが、意外と性に合っていたこともあり、品質保証部の大先輩に助けていただきながら、頑張っている最中です。

最後になりますが、学生の皆さんへ。迷った末に選んだ道はどのみち後悔してしまうものかもしれません。だからこそ、岐路に立った時は、純粋に今楽しいと思える方角へ進んでみてください。そうすることで、皆さんが少しでもより良い未来を手繰り寄せられるよう切に願っています。

Library News

2023年度 学年別ベストリーダー (集計期間：2023年4月～2024年3月)

図書館

各学年で最も貸出された図書はこのような結果となりました！1年次生には『アンサンングシンデレラ』が相変わらず人気ですが、学年が上がるにつれ、授業で使用する参考書をはじめ、CBTや就職活動、国家試験対策等に役立つ実用的な図書の貸出が増える傾向が見られました。これからも皆様の多様なニーズを反映しながら、学習・研究をサポートする専門的な図書はもちろん、余暇時間に楽しむことができる図書なども取りそろえ、気軽に足を運びやすい図書館を目指していきます。新着図書も随時、受入れしていますので、ぜひチェックしてみてください。

学年	書名	貸出回数
1年	アンサンングシンデレラ：病院薬剤師葵みどり 3	8
	アンサンングシンデレラ：病院薬剤師葵みどり 4	8
	今こそ「わかる」有機化学入門：マンガと図解ですらすら読める！	8
2年	公式TOEIC listening & reading 800+	13
3年	製剤学・物理薬剤学	7
	有機化学演習 (京都廣川"バザバ"薬学演習シリーズ:4)	7
	6年制課程薬剤師国家試験対応領域別既出問題集 [改訂第10版] 6 病態・薬物治療	7
	目からウロコが落ちる奇跡の経済教室 基礎知識編	7
	アメリカの高校生が学んでいる経済の教室	7
4年	コアカリ・マスター 新コアカリCBT対応版 Vol.1 物理系薬学/化学系薬学/生物系薬学 改訂第8版	36
5年	内定者はこう書いた！エントリーシート履歴書・志望動機自己PR【完全版】 [25年度版]	14
6年	薬ゼミの必須対策問題集：徹底攻略1200	11
	薬剤師国家試験既出問題集 第105回	11

本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



ながお こうじろう
薬品物理化学分野 准教授 長尾 耕治郎

『ぞうのたまごのたまごやき』

寺村輝夫 作、長新太 画

福音館書店 (1984年)

私が紹介するのは、寺村輝夫さんの絵本「ぞうのたまごのたまごやき」です。大学生に紹介する書籍として絵本とは、と思われる方もいるかもしれませんが、少々お付き合いください。

王様の家に赤ちゃんが産まれました。それをお祝いするために、国中の人に王様の大好物である卵焼きをふるまうことになりました。しかし、国中の人のために卵焼きを作るにはたくさんのたまごが必要です。そこで王様は大きな生き物のたまご、つまり象のたまごを使えば良いのではと思いつきます。王様はそのアイデアに満足しており、大臣達も王様のために準備を進めます。ある大臣は大きな卵焼きを作るための大きなフライパンと大きなかま



どを作りました。また、別の大臣は象のたまごを求めて森へとくり出しました。フライパンとかまどの準備は順調です。あとは象のたまごが見つければ大きな卵焼きを作ることが出来そうです。象のたまご?とところで、象はたまごを産むのかな??

小学生の頃に「かいぞくポケット」や「こまったさん」シリーズを夢中になって読んでいた私にとって、寺村輝夫さんは大好きな作家の一人です。その寺村輝夫さんの絵本を大学を卒業してからの恩師に紹介頂きました。寺村輝夫さんや私の恩師が本書で伝えたかった本当のメッセージはわかりませんが、基礎研究を行う私に多くのことを考えさせてくれた絵本です。私たちが大学で行う研究においても、時によっては“あるはずのない”象のたまごを探していることがあるかもしれません。しかし、教科書に書かれていないことを明らかにすることが研究の醍醐味ですし、新たな発見は教科書を書き換えます。教科書に載っていない象のたまごを見つけたら、それは大発見です。

また、物語では王様たちは象のたまごを見つけることが出来ませんでした。かわりに素敵なものを手に入れます。研究でも予想外のものを得ることがありますし、初めに考えた事とは異なる方向に進むのが世の常です。ところで、象のたまごは本当に存在しないのでしょうか?どのような王様だったら象のたまごを見つけれられたのかな・・・とも考えさせられた絵本です。

とみまつ なつき
事務局 企画・広報課 富松 南月

『星の王子さま』

著者 サン・テグジュペリ 訳者 管 啓次郎

KADOKAWA/角川文庫 (2011年)

世界的にも有名なこの本、読んだことがあるという方も多いのではないのでしょうか。私が「星の王子さま」と初めて出会ったのは中学一年生の時でした。

主人公の「ぼく」は飛行機のパイロットです。ある日、ぼくの操縦する飛行機が故障しサハラ砂漠に不時着してしまいます。そこで出会うのがタイトルにもなっている星の王子さまです。王子さまは自分の星で大事に育てていた「バラ」と喧嘩をし、星を飛び出てきたのでした。ぼくは王子さまがここに来るまでに巡ってきた星の話聞きながら飛行機の修理を進めます。ここで語られる星のお



話がとても印象的で、メルヘンチックなイラストからは想像できないような、ちょっと嫌なキャラがたくさん登場します。威張った王様や自分への褒め言葉しか聞こえない自惚れ屋、嫌なことを忘れるためにお酒を飲み続ける呑み助など様々なキャラクターと出会い、別れ、王子さまはちいさな自分の星では学べなかったことをたくさん学びます。

中でも私が一番好きなシーンは王子さまが美しく咲き誇るバラ園に辿り着き、世界には自分の星の「バラ」以外にもたくさんの「バラ」が居ると知るシーンで、そこに居合わせたキツネが言う「きみのバラが、きみにとってかけがえのないものになったのは、きみがバラのために費やした時間のためなんだ」というセリフです。このセリフは人と人の関係はもちろん、趣味や勉強、仕事にも言えることだと思います。一生懸命何かと向き合った時間は皆さんの中でも特別な意味を持つものになっているのではないのでしょうか。

ここで紹介したものはほんの一部で、他にもたくさんの素敵な言葉と出会える本です。こんなにも有名な本を今更紹介するのも憚られるのですが、私自身大人になって読み返し、これらの言葉の聞こえ方が、大きく変わる経験をしました。昔読んだことがあるという方も、まだ読んだことがないという方も、星を巡るように出会いと別れを繰り返してきた方にこそ、今一度立ち止まり読んでほしい一冊です。

本学では、授業における学生の学びの自己評価と大学の授業改善を目的とした学生による授業評価を前期と後期の年2回実施しています。

授業評価の方法は「授業アンケート」としてFormsを利用して各講義科目の担当教員（専任教員及び非常勤講師）ごとに実施しています。

2023年度授業は5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、1～2年次生は原則、全て対面授業、3～4年次生は原則、対面授業と同時中継・同時配信授業を隔週で行う授業、6年次は原則、対面授業及びオンデマンド授業で実施し、学年や科目によって異なる形態の授業において授業アンケートを実施しました。

本アンケートの集計結果を受けて、学生の意見に対するフィードバックのために教員は「リフレクション・ペーパー」を作成しています。このリフレクション・ペーパーは大学のポータルサイト「manaba」で掲載して公開し、また冊子体にして図書館で閲覧ができるようにしています。これによって今後の授業改善が積極的に進み、学生及び教員にとって有意義な授業が実施されることを期待しています。

2023年度授業評価の集計結果と解析結果の概要を以下の通り報告します。「学生自身の授業で学ぶ態度」と、「教員の授業に関する項目」について別々に評価をしました。

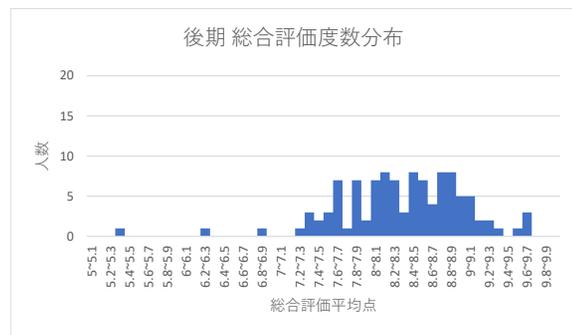
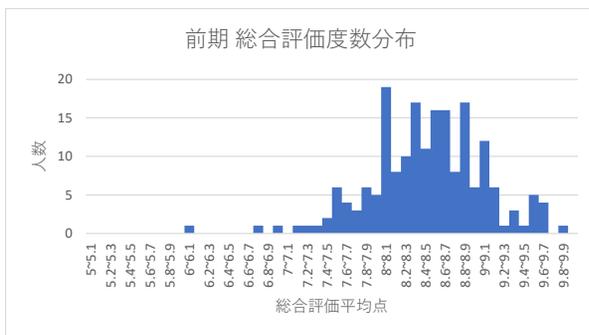
◇「学生自身の授業で学ぶ態度」

設問		前期評価	後期評価
Q1	予習・復習などの授業外学習を十分に行い、この授業に対して意欲的に取り組んだ。	4.13	4.10
Q2	授業の到達目標を達成できた。	4.18	4.11
Q3	授業で学んだことを、他の授業の内容（今までに学んできたこと、他の科目など）と関連付けながら理解することができた。	4.24	4.14
Q4	授業で学んだことで興味・関心が高まり、これからもより深く学びたいと思った。	4.27	4.18

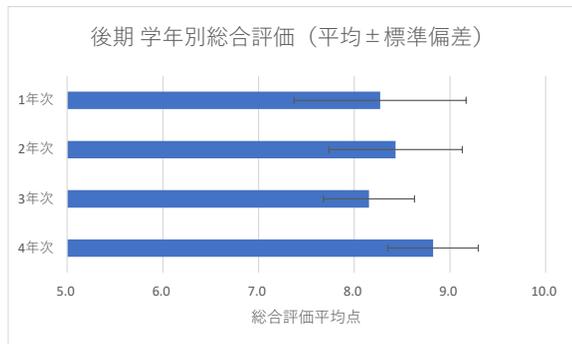
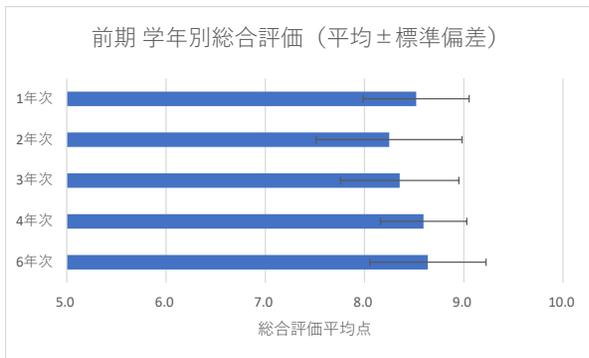
(5段階評価)

◇教員の授業に関する項目

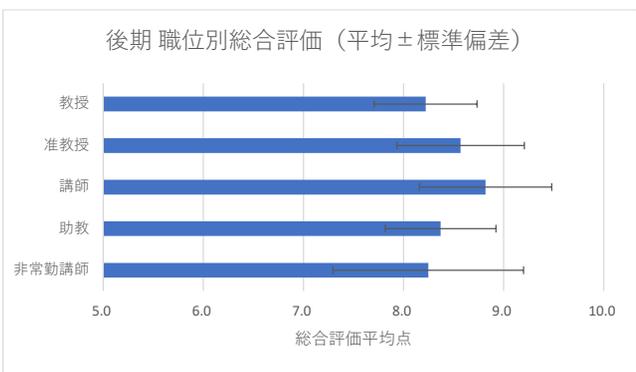
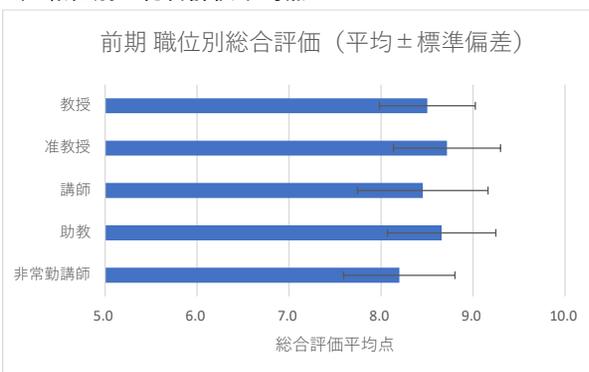
1) 総合評価の分布



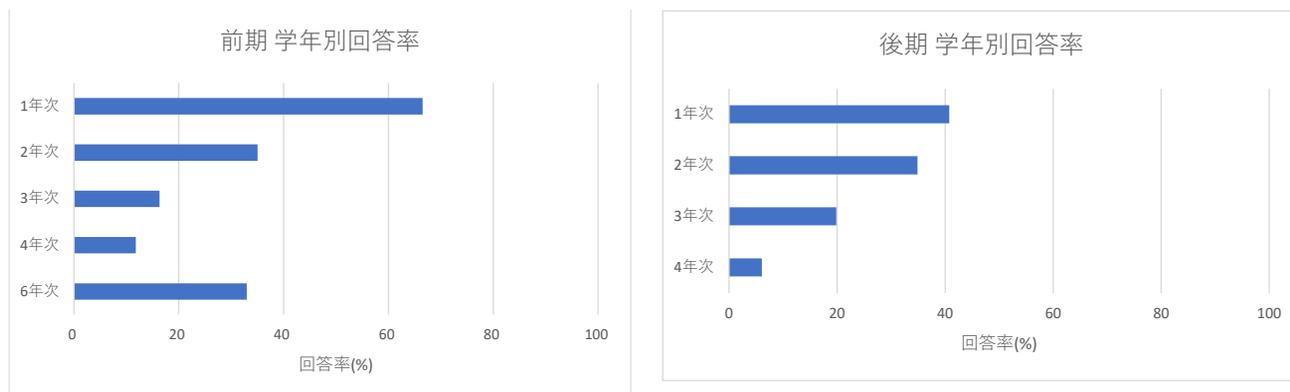
2) 学年別の総合評価平均点



3) 職位別の総合評価平均点



4) 学年別のアンケート回答率



最後に、授業アンケートに協力頂いた学生のみなさんに感謝するとともに、今後の授業改善のために、アンケート回答率の更なる向上を目指します。授業アンケートは今後も継続して実施しますので、回答へのご協力をお願いします。

また、評価対象となった教員におかれましては、アンケート結果を参考にされ、更なる授業改善に役立てていただければ幸いです。

事務局お仕事紹介

■ 第5弾 入試課

こんにちは。KPU_{NEWS}学生編集委員です。今年度より担当させていただきます。拙い部分もあると思いますが、よろしくお願いいたします！

今回は入試課について紹介します。入試課は入学前には関わる機会が多いものの、入学後は関わる機会がほとんどないのではないのでしょうか。また、入試期間以外はどのような業務を行っているのか、入試課の外村さんに取材しました。

入試課では課長1名、課員4名の計5名の方が働いており、愛学館7階の一番奥の部屋にあります。主な仕事は2つあり、1つ目は入試業務です。入試当日の会場の手配や本学以外の別会場での受験の準備を行います。また、12月～2月は願書の受付や訂正の連絡に加え、1月中旬に行われる共通テストの会場と準備と一般選抜B方式の試験など、入試準備を同時並行で行わなければならない、一番忙しい時期だそうです。

2つ目は入試広報業務です。大阪、兵庫などをはじめとした全国の大学説明会へ出向き、来場者一人ひとりと向き合い、本学の情報提供を行っています。来場者は本学が第一志望ではない人も多く、“薬学部”自体に興味を持ってもらうよう魅力を伝えるとともに薬学部の勉強内容や就職の多様性など薬学部への入学前と入学後のギャップが少ないように心がけているそうです。それだけでなく、年3回実施するオープンキャンパスの準備や運営も行います。業務内容が幅広く、大変な仕事ですが、本学に入学された学生の中には、オープンキャンパスに参加して本学の受験を決意した人が多く、入学後に学生からその言葉を聞くとやりがいを感じるそうです。

最後に、入試課の皆さんからメッセージを紹介します。

“ぜひ本学に通うことを誇りに思って勉強に励んでください。学生の皆さん一人ひとりが大学の魅力の1つになります。”

少しは入試課について知ることが出来たでしょうか。私たちがほとんど関わる機会がない部署はほかにもたくさんあるので、また取材してみたいと思いました。ではまた次回。

● バックナンバー

第1弾 企画・広報課／No. 212 (2023年1月号) 第2弾 進路支援課／No. 213 (2023年4月号)
第3弾 情報管理推進室／No. 214 (2023年7月号) 第4弾 教務課・学生課／No. 216 (2024年1月号)

掲載されているKPU_{NEWS}は本学公式Webサイト (<https://www.kyoto-phu.ac.jp/other/publicity/>) よりご覧ください。



取材の様子



入試課の扉の前で
(左から) 中澤、外村さん、中川

◆2024年度漢方講座 ～漢方治療の臨床力を身につけよう～

- * 日程：2024年 9月8日(日)、10月27日(日)、11月10日(日)、12月8日(日) 10:00～16:00
- * 場所：京都薬科大学愛学館3階A31講義室 及び オンライン配信
- * 定員：対面100名
- * 参加費：20,500円(受講料20,000円、事務手数料500円)
- * 申込受付期間：2024年7月10(水)～8月26日(月)
- * 認定単位：G24計12単位(1単位/演題)



開催日	10:00-11:40【基礎】	12:30-14:10【薬物】	14:20-16:00【臨床】
2024年 9月8日 (日)	セルフメディケーション領域 の漢方—月経痛— 未広薬局/京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	漢方製剤の品質評価(仮題) 小太郎漢方製薬株式会社 取締役研究開発本部長 吉田 雅昭 先生	ペインクリニック領域の漢方治療 滋賀医科大学 麻酔学講座 中西 美保 先生
2024年 10月27日 (日)	セルフメディケーション領域 の漢方—動悸— 未広薬局/京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	知っておきたい漢方配合生薬 (その4) 京都漢方研究会 理事長/京都薬科大学 名誉教授 松田 久司 先生	消化器領域の漢方治療 国立病院機構福山医療センター 消化器内科 医長 坂田 雅浩 先生
2024年 11月10日 (日)	セルフメディケーション領域 の漢方—疲労倦怠感— 未広薬局/京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	生薬の選品と鑑別(5) 株式会社板本天海堂 東京営業所 所長 宮嶋 雅也 先生	不妊治療—妊娠前から行う 漢方治療について 関西医科大学総合医療センター 産婦人科 漢方外来 梶本 めぐみ 先生
2024年 12月8日 (日)	セルフメディケーション領域 の漢方—肥満— 未広薬局/京都漢方研究会 理事 高橋 宏和 先生	薬局薬剤師ができる研究活動 松花堂マツヤ薬局 代表取締役 東邦大学医学部東洋医学研究室 客員講師 名古屋市立大学大学院薬学研究所 生薬学分野 研究員 笹木 司 先生	皮膚科診療における漢方治療 ～痤瘡を中心に～ 兵庫医科大学 医学部 皮膚科学 教授 夏秋 優 先生

◆2024年度eラーニング講座

配信開始しています。配信期間中いつでもお申込みいただけます。

- * 配信期間：2024年6月1日(土)～2025年2月28日(金)
- * 参加費：①全視聴コース 30,500円(受講料30,000円、事務手数料500円)
②当年度コース 22,500円(受講料22,000円、事務手数料500円)
③卒後コース 20,500円(受講料20,000円、事務手数料500円)
④漢方コース 24,500円(受講料24,000円、事務手数料500円)
- * 申込受付期間：2025年2月24日(月)まで * 認定単位：G24 1単位/コンテンツ

■ 申込方法 生涯教育センターWebサイトよりお申込みください。
<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>

■ 問合せ先 京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課
* E-mail: s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp
* TEL: 075-595-4677 * FAX: 075-595-4792



生涯教育センター
問い合わせフォーム



漢方講座
申し込みページ



eラーニング講座
申し込みページ

■ 本学の学生・職員は、2024年度漢方講座及び2024年度eラーニング講座を無料で受講できます。受講希望者は、実務・生涯教育課までメールにてご連絡ください。
皆様のご参加をお待ちしております。

1. 入学定員・募集人員

学部	学科	入学定員
薬学部	薬学科	360名

2. 募集人員・出願資格

	学校推薦型選抜		一般選抜			
	指定校制	一般公募制	共通テスト利用 前期	一般選抜前期 (3教科型)	一般選抜後期 (2教科型)	共通テスト利用 後期
募集人員	50名	90名	45名	150名	20名	5名
出願資格	高等学校長へ通知	2025年3月卒業見込者及び 2024年3月卒業者 ^{*1} で、学習 成績の状況3.2以上	2025年3月卒業見込者及び既卒者			

^{*1} 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2024年3月に修了した者、及び2024年4月以降2025年3月末までに修了または修了見込の者を含む。

3. 選抜日程等

	学校推薦型選抜		一般選抜			
	指定校制	一般公募制	共通テスト利用 前期	一般選抜前期 (3教科型)	一般選抜後期 (2教科型)	共通テスト利用 後期
出願期間	2024年11月1日(金) ～2024年11月7日(木) 必着	2024年11月1日(金) ～2024年11月8日(金) 当日消印有効	2025年1月6日(月) ～2025年1月14日(火) 当日消印有効	2025年1月6日(月) ～2025年1月21日(火) 当日消印有効	2025年1月6日(月) ～2025年2月17日(月) 当日消印有効	2025年2月19日(水) ～2025年3月5日(水) 当日消印有効
試験日	2024年11月11日(月)	2024年11月16日(土)	2025年1月18日(土) 2025年1月19日(日)	2025年2月3日(月)	2025年2月20日(木)	2025年1月18日(土) 2025年1月19日(日)
合格発表日	2024年12月2日(月)		2025年2月14日(金)		2025年3月5日(水)	2025年3月14日(金)
入学手続 期限	2024年12月9日(月) 必着 入学金・授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限		2025年2月21日(金) 入学金納付期限		2025年3月12日(水) 入学金納付期限	2025年3月21日(金) 入学金納付期限
			2025年3月21日(金) 必着 授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限			

4. 検査・試験項目等

学校推薦型選抜 (指定校制)	
面接・調査書を基に総合的に判定する。	
試験場：京都薬科大学キャンパス	

学校推薦型選抜 (一般公募制)	配点	合計
適性検査Ⅰ：英語 (試験時間 60分)	100	
英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ 論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ		
適性検査Ⅱ：化学 (試験時間 60分)	100	
化学基礎、化学		
面接	40	
調査書 国語と数学の学習成績の状況の合計×2	20	
ただし、一定基準に達しない検査項目があれば、不合格になることがある。		
試験場：京都薬科大学キャンパス		

一般選抜 共通テスト利用前期			配点	
数学	数学①(「数学Ⅰ、数学A」、数学②(「数学Ⅱ、数学B、数学C」))	200	合計	710
外国語	英語(「リーディング」と「リスニング」)	200 ^{*2}		
国語	国語 [近代以降の文章のみ]	110		
理科	化学 [必須]、物理・生物から1科目 [選択]	200		

^{*2} リーディングとリスニングの合計点を200点満点に換算し素点とする。(リーディング160点満点、リスニング40点満点)

一般選抜 前期 (3教科型)			配点		試験時間
数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(数列、統計的な推測)、数学C(ベクトル)	200	合計	600	
外国語	英語 英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ	200			
理科	化学基礎、化学	200			
試験場：京都薬科大学キャンパス、大阪会場					

一般選抜 後期 (2教科型)			配点		試験時間
数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(数列、統計的な推測)、数学C(ベクトル)	いずれか 2教科選択	100	合計	
外国語	英語 英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ		100		
理科	化学基礎、化学		100		
試験場：京都薬科大学キャンパス					

^{*3} 試験時間(120分間)内に3教科のうち、2教科を選択し解答する。

一般選抜 共通テスト利用後期			配点	
数学	数学①(「数学Ⅰ、数学A」)、数学②(「数学Ⅱ、数学B、数学C」)	100 ^{*4}	合計	230
理科	化学	100		
調査書		15 ^{*5}		
志望理由書		15		

^{*4} 200点満点を100点満点に換算し素点とする。 ^{*5} 学習成績の状況×3(小数点以下第1位を四捨五入)を素点とする。

問合せ先：〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 京都薬科大学 入試課
TEL (075)595-4678 / FAX (075)583-2232 / HP <https://www.kyoto-phu.ac.jp/>

	薬学専攻 博士課程(4年制)	薬科学専攻 博士後期課程(3年制)	備 考
募集人員	(一般入試、社会人入試) 10名	(一般入試、社会人入試) 2名	
募集分野等	(募集分野等、協力分野等) 22分野等	(募集分野等、協力分野等) 14分野等	協力分野においても研究指導を受ける事ができる
出願資格	<p>(1) 大学(6年制薬学部)を卒業した者(2025年3月末日までに卒業見込者を含む)</p> <p>(2) 大学(4年制学部)を卒業後、社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において2年以上の実務・研究経験を有している者(本学における研究生等を含む)で、本学大学院における入学資格審査において、第1号の者と同等以上の学力があると認められた者</p> <p>(3) 修士の学位を有する者(2025年3月末日までに当該学位取得見込者を含む)</p> <p>(4) 外国において、学校教育における所定の課程を修了した者で、本学大学院における入学資格審査において、第1号の者と同等以上の学力があると認められた者</p> <p>(5) 外国において、(3)と同等の修士の学位に相当する学位を有する者(2025年3月末日までに当該学位取得見込者を含む)</p> <p>(6) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、第1号の者と同等以上の学力があると認められた者</p>	<p>(1) 薬学系(薬学、臨床薬学又は薬科学)又は理科系の修士の学位を有する者(2025年3月末日までに当該学位取得見込者を含む)</p> <p>(2) 外国において前号と同等の修士の学位に相当する学位を有する者(2025年3月末日までに当該学位取得見込者を含む)</p> <p>(3) 大学卒業後、出願時に社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、本学大学院における入学資格審査において、第1号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者</p> <p>(4) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、第1号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者</p>	<p>〈薬学専攻〉募集分野等</p> <p>薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、衛生化学分野 微生物・感染制御学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 病態生化学分野、薬物治療学分野 臨床薬理学分野、薬理学分野 臨床腫瘍学分野、薬剤学分野 臨床薬学分野 臨床薬剤疫学分野、シナジーラボ</p> <p>(協力分野等)</p> <p>薬化学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品物理化学分野 放射性同位元素研究センター</p> <p>〈薬科学専攻〉募集分野等</p> <p>薬化学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品物理化学分野 放射性同位元素研究センター</p> <p>(協力分野等)</p> <p>薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 薬理学分野、薬剤学分野、シナジーラボ</p>
主な出願書類	<p>(1) 入学願書</p> <p>(2) 成績証明書※1</p> <p>(3) 卒業論文及び卒業論文の要旨(英文可)※2</p> <p>(4) 志願者名票・受験票</p> <p>(5) 卒業(見込)・修了(見込)証明書※1</p> <p>(6) 出願資格(4・5)の者は住民票※3</p>	<p>(1) 入学願書</p> <p>(2) 成績証明書</p> <p>(3) 修士論文及び修士論文の要旨(英文可)※2</p> <p>(4) 志願者名票・受験票</p> <p>(5) 研究業績録</p> <p>(6) 修了(見込)証明書</p> <p>(7) 出願資格(2)の者は住民票※3</p>	<p>※1 本学卒業見込者を除く</p> <p>※2 卒業見込・修了見込者は卒業研究の概要(2,000字以内)1部(英文可)</p> <p>※3 学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。</p>
関係日	出願期間	(夏季募集) 2024年7月 1日(月) ~ 2024年7月12日(金) [必着] (冬季募集) 2025年1月 7日(火) ~ 2025年1月14日(火) [必着]	
	試験日	(夏季募集) 2024年8月22日(木) (冬季募集) 2025年1月24日(金)	
	合格発表日	(夏季募集) 2024年8月28日(水) (冬季募集) 2025年1月27日(月)	
	入学手続期限	2025年3月6日(木) 入学金納付期限 授業料前納付期限, 入学手続書類提出期限	
選考	専攻に必要な研究能力について、卒業論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	専攻に必要な研究能力について、修士論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	

★出願に関する問い合わせ先
事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

※最新の情報は右記QRコード(本学ホームページ)よりご確認をお願いします。
https://www.kyoto-phu.ac.jp/exam_information/



■こころのバウンダリーを意識する

学生相談室は、本学のよろづ相談所として、様々な相談事をお受けしておりますが、中でも対人関係の悩みがテーマとなることはよくあります。

そして、対人関係の難しさについて考える時、こころのバウンダリーの問題が挙げられると感じています。バウンダリーとは境界線のことですが、こころのバウンダリーとは、「自分と他者を区別するもの、違いでありその違いを守るもの、つまり『私は私』という境界線」のことを言います。そのこころのバウンダリーが守られてこそ、人の尊厳や心理的安全性が守られ、私は私、あなたはあなたという別個の存在として尊重し合える関係が築けるわけです。

例えば、親子関係について例をあげてみましょう。わかりやすいところと言えば、自室をノックなしで勝手に入ってこられる時、誰とどこに出かけるのかを逐一聞かれるとき、幼い頃なら抵抗感はなかったことかもしれませんが、思春期以降、自我の輪郭がはっきりしてきた頃には、そういった親の行動に違和感を抱くようになっていく人もいます。親子間であっても、それぞれのプライベート空間やプライバシーを尊重することは、よりよい関係を築いていくためにとても大切なことです。

同世代間の関係の場合はどうでしょうか。こちらは逆に、どこまで踏み込んだらいいのかわからないという悩みをよく聞きます。境界を意識しすぎるあまりに、仲良くなるプロセスにおいてその加減が難しく、表面的なやりとりで終始してしまうということもあるでしょう。それは、友人関係においても、恋愛関係においても起こることです。一方で、そのバウンダリー

が守られず、その上、どんどん不均衡な力関係が出てきてしまうと、いじめや恋人間DV等の非常に深刻で暴力的な問題に発展する場合があります。

目には見えないこの境界線について、どこまで踏み込まれたら違和感を感じるのかという、そのラインの位置は非常に個人差があるものです。また、幼い頃からこころのバウンダリーを大切にされなかった経験が多ければ多いほど、そのバウンダリーの厚さや強度を調節して自分を守るスキルの獲得が困難になってしまい、対人関係においてとても苦労することがあります。

関わる相手の、そして自分自身のこころのバウンダリーをしっかりと意識し、大切にしながら対人関係を築いていくことは簡単なことではありません。常に自覚と配慮と工夫が求められます。それだけに、いつの時代も悩み事のテーマとなりやすいのだと言えるでしょう。

学生相談室では、そういった親子関係、友達関係、恋人関係等についてのご相談もお受けしております。お気軽にお問い合わせください。

(臨床心理士 上野みな子)

参考web記事：自己と他者を区別する境界線「バウンダリー」とはソーシャルワーカー鴻巣麻里香さんによる解説

<https://co-coco.jp/series/study/boundary/>

●相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館4階

相談を希望される方は下記申し込みフォームまたはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

- ・開室（受付）時間：月～金 8:45～17:15
- ・学生相談室メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp
- ・電話：075-595-4672（建部） / 075-595-4686（上野）
- ・申込フォーム：<https://www.kyoto-phu.ac.jp/contact/support.html>



申し込みフォーム
QRコード

本学研究者の研究資金には、大学から配当される研究費のほか、国などから助成される公的研究費（私学助成金を含む。）、公益財団法人や企業からの研究助成寄付金、共同研究・受託研究契約に基づく企業からの研究費などがあります。

公的研究費は、文部科学省をはじめ厚生労働省、日本医療研究開発機構（AMED）などから助成されていますが、その中でも大きな割合を占めるのが、文部科学省所管の「科学研究費助成事業」（略して「科研費」）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請す

るものがあります。また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

下表には代表者のみ記載していて、分担者として共同研究をしている場合は含まれていません。令和6年度は、本学から新規で37件申請して14件が採択されました（新規採択率37.8%）。合計採択件数は37件、令和6年度交付予定総額は94,900千円となっています。

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。挑戦的研究（萌芽）は現在申請中です。

研究種目	研究代表者	分野名	課題番号	課題名	交付額 (千円)	新規・ 継続
学術変革領域研究(B)	長尾 耕治郎	薬品物理化学	23H03857	膜脂質による細胞応答のしなやかさ制御	12,350	継続
基盤研究(B)	長尾 耕治郎	薬品物理化学	24K01685	リン脂質リモデリングを介した細胞環境変化への適応機構	5,980	新規
基盤研究(B)	古田 巧	薬化学	24K02158	カルコゲン結合による触媒構造制御法の確立と選択的分子変換への展開	7,930	新規
基盤研究(B)	異島 優	薬剤学	24K02201	各アルブミン相互作用タンパク質の特性を活用した革新的アルブミンDDSキャリアの開発	4,810	新規
基盤研究(B)	中山 祐治	生化学	24K02891	がん細胞に特徴的な細胞分裂におけるコレステロール生合成経路の意義解明	8,840	新規
基盤研究(B)	大石 真也	薬品化学	23K24010	鏡像型タンパク質の特性を活かした創薬スクフォールドの創製と応用	3,770	継続
基盤研究(B)	小林 祐輔	薬化学	23K24011	次世代ペプチド創薬の基盤となる分子技術の開発	2,600	継続
基盤研究(B)	関根 勇一	細胞生物学	23K24801	機能性食品成分による中枢神経再生調節についての研究	3,380	継続
基盤研究(B)	中村 誠宏	生薬学	23K27333	薬用植物由来酵素を活用した擬天然物の構築と膠芽腫治療薬開発への展開	4,160	継続
基盤研究(C)	扇田 隆司	共同利用機器センター	24K09756	新規数理モデルを用いたパートナー分子によるαシヌクレイン凝集核形成制御機構の解明	1,560	新規
基盤研究(C)	武上 茂彦	薬品分析学	24K09770	多粒子結合イオン液体ナノ粒子-電気化学発光イムノアッセイの2成分同時測定法の開発	1,430	新規
基盤研究(C)	幸 龍三郎	生化学	24K09824	がん細胞分裂を支持する分子基盤の解明と治療応用の検討	1,430	新規
基盤研究(C)	伊藤 由佳子	薬物動態学	24K09972	血中循環腫瘍細胞の臨床実装による腫瘍集学的治療アルゴリズム構築	2,600	新規
基盤研究(C)	安井 裕之	代謝分析学	24K10044	がん間質部位占有能をもつ金-硫黄錯体をアジュバントにした白金系抗がん剤の作用増強	1,820	新規
基盤研究(C)	芦原 英司	病態生理学	24K11528	公共データベースを駆使したALLに対する標的分子探索とシース化合物発掘	1,430	新規
基盤研究(C)	小林 数也	薬品化学	23K06058	アルツハイマー病予防・治療薬への展開を指向した新規大環状BACE1阻害剤の開発	1,430	継続
基盤研究(C)	高山 健太郎	衛生化学	23K06059	マイオスタチンとアクチビンのデュアル阻害に基づく先端的な骨格筋増強ペプチドの創出	1,820	継続
基盤研究(C)	田中 智之	薬理学	23K06122	マスト細胞によるIL-10産生の制御機構およびその作用の解明	1,690	継続
基盤研究(C)	秋葉 聡	病態生化学	23K06157	高脂肪食負荷解除下での肝線維化修復促進を狙ったIⅤA型PLA2の細胞種特異的制御	1,690	継続
基盤研究(C)	加藤 伸一	薬物治療学	23K06158	Ca ²⁺ 高透過性TRPV6の腸上皮バリア機能制御における役割解明	1,560	継続
基盤研究(C)	河下 映里	病態生化学	23K06176	細胞外プロテアーゼ活性制御による新生児低酸素性虚血性脳症の神経再生療法の高効率化	1,690	継続
基盤研究(C)	栄田 敏之	薬物動態学	23K06224	SGLT2阻害剤ダバグリフロジンの慢性心不全に対する有効性に関する研究	1,950	継続
基盤研究(C)	西口 工司	臨床薬学	23K06292	トリプルネガティブ乳癌におけるPARP阻害剤耐性化の克服を目指した新規機序の解明	2,210	継続
基盤研究(C)	戸田 侑紀	病態生理学	23K06620	肺前転移ニッチにおける乳酸アシドーシス発症因子の同定	1,170	継続
基盤研究(C)	中田 晋	臨床腫瘍学	23K06642	GGCT阻害によるNotch制御機構の解明と膠芽腫幹細胞を標的する新規治療法の確立	1,430	継続

基盤研究(C)	田中 憲一	物理学	23K07118	BNCTの線量・線質の体内3次元分布の評価法—全身ファントム型蛍光体の開発—	780	継続
基盤研究(C)	岸野 良治	一般教育	22K00065	空海の遺志を継ぐ学僧たち：近世後期の「根本説一切有部律」宣揚運動	650	継続
基盤研究(C)	坂本 尚志	一般教育	22K00115	「最初のフーコー」の総合的研究—フランス国立図書館所蔵の未公開資料に基づく考察	1,690	継続
基盤研究(C)	斎藤 博幸	薬品物理化学	22K06556	アミロイド共存分子によるタンパク質凝集・線維化制御機構の解明	1,300	継続
基盤研究(C)	長澤 一樹	衛生化学	22K06590	抗がん剤のうつ病誘発リスクに関する基礎的および薬剤疫学的検証	1,040	継続
基盤研究(C)	齊藤 洋平	生化学	22K06621	熱ストレスによるがん悪性化シグナル活性化とその阻害効果	1,300	継続
基盤研究(C)	飯居 宏美	臨床腫瘍学	22K06756	GGCTとxCTのダブル阻害によりフェロトシスを増強する全く新しいがん治療戦略	1,170	継続
基盤研究(C)	石原 慶一	病態生化学	22K07033	ダウン症胎生期脳発達遅滞のメカニズム解析と胎内治療の開発	1,040	継続
若手研究	木口 裕貴	薬品分析学	24K18265	次世代診断薬の創出を支援するハイスループット高親和力変異抗体探索システムの開発	1,170	新規
若手研究	西藤 有希奈	代謝分析学	24K18273	亜鉛輸送体の発現と局在制御を介した効率的な亜鉛吸収機構の解明と応用展開	1,430	新規
若手研究	森戸 克弥	衛生化学	24K18292	リゾリン脂質メチルエステル分解促進によるうつ病発症機構の解明と新薬開発への応用	1,560	新規
若手研究	太田 智絵	生薬学	21K15289	オートファジーを介したメラニン産生から分解までを制御する天然物の探索	1,040	継続

【寄稿】2023年度関西大学Dリーグベスト15に選出されました

Report

ながの ともひろ
ラグビー部キャプテン 3年次生 長野 倫大

私は12歳の時にラグビーを始めました。最初は嫌々親にグラウンドに連れて行かれ、体験をしました。それまでは個人競技しかやったことがなかったのですが、周りとの協力してトライをとることや、自分より大きな相手を倒せることが分かっていき、ラグビーという競技に魅了されていきました。私はラグビーを一言で表すなら陣取りゲームだと思います。パスは後ろにしか投げることができず簡単には前に進めない競技で、その中でどうやってトライのエリアまでボールを運ぶことができるか自分の得意な分野で攻めたり、相手の苦手な部分を攻めるなど戦術を考えながら行っていきます。ラグビーを長年やっていくうちにこのようなことを考えながらプレーする面白さが分かり、より夢中になりました。



背番号9：本人

近年では日本がワールドカップで南アフリカに勝利したことや、ベスト8まで勝ち上がり、ラグビーの知名度が上がったと感じます。一見、ルールが細かいため、分かりづらく、観ても分からないことが多いかもしれませんが、じっくり観戦してみると大きい選手たちがぶつかり合ったり、スピードの速い選手が相手を置き去りにしたりと爽快感があるスポーツだと思います。また、日本のプロリーグでは世界の各ポジションで最前線を走る選手が沢山います。もし各国のリーグで選抜チームを作ったら日本のリーグが一番強いのではないかなと思えるほど豪華なメンバーが揃っています。機会があったらぜひ一度観戦してほしいです。

中学、高校と各カテゴリーで選抜チームに選んでいただきましたが、自分のチームではなかなか勝つことができず、悔しい思いをすることもありました。また、自分の身体が小さく、周りとの実力差を感じる機会も多かったため、強豪校と呼ばれるような大学でラグビーをすることは諦めました。そんな中、誰かの役に立ちたいという気持ちと関西には友達がたくさんいるということから京都薬科大学を志望し入学しました。大学の部活動では別のスポーツをやってみたかったのですが、気が付いたらこのクラブに入ることを決めていました。

大学から競技を始める人も多い中、前年度のリーグ戦ではなんとか一勝することができました。みんなが日々ひたむきに練習した結果だと思います。そんな中、今回京薬が所属しているDリーグ*のベスト15に選んでいただきました。しかし一人でやるスポーツではないので部員みんなの活躍もあり、取ることができた賞だと思います。

ラグビーはプレーする人数が15人もいるスポーツで、勝つ喜びや負ける悔しさを共有することも多く、より深い関係になれると感じています。そんな中で部員みんなには勝つことを通じてラグビーの魅力や楽しさを知り、かけがえのないチームメイトとの関係を築いてほしいです。勉強等で忙しく、なかなか全員集まって練習の時間を確保することは難しいですが、これからリーグ戦までの残り短い時間、楽しく勝ちにこだわって練習に励みたいと思います。



*関西ラグビーフットボール協会の大学ラグビーにおける各リーグについてはWebサイトをご覧ください
<https://rugby-kansai.or.jp/gameuniversity>

■生薬学分野、薬化学分野、公衆衛生学分野が報告した学術論文が、学術誌 *Chemical and Pharmaceutical Bulletin* の Featured article に選出されました

生薬学分野、薬化学分野、公衆衛生学分野が報告した学術論文が、学術誌 *Chemical and Pharmaceutical Bulletin* の Featured article に選出されました。

タイトル : Antiproliferative Activities of Cynaropicrin and Related Compounds against Cancer Stem Cells

著者名 : Kousuke Araki, Minami Hara, Shohei Hamada, Takahiro Matsumoto, Seikou Nakamura

掲載巻号 : *Chem. Pharm. Bull.* 72 (2024) Issue 2 Pages 200–208

Webサイト : https://www.jstage.jst.go.jp/browse/cpb/_contents/journal-featured-articles/-char/ja

■薬理学分野の田中智之教授のコメントが2024年4月9日にthe japan timesで紹介されました

薬理学分野の田中智之教授のコメントが2024年4月9日にthe japan timesで紹介されました。

掲載記事は以下URLよりご覧ください。

<https://www.japantimes.co.jp/news/2024/04/09/japan/science-health/10-years-since-stap/>

■衛生化学分野が報告した学術論文が *Biol. Pharm. Bull.* 誌の Featured Article 選出されました

衛生化学分野が報告した学術論文が *Biol. Pharm. Bull.* 誌の Featured Article 選出されました。

タイトル : Alteration of Sweet and Bitter Taste Sensitivity with Development of Glucose Intolerance in Non-insulin-Dependent Diabetes Mellitus Model OLETF Rats

著者名 : Utano Tanaka, Keisuke Mogi, Natsumi Fujita, Miho Moriwake, Katsuya Morito, Kentaro Takayama, Hirotohi Morimoto, Takeshi Yasukawa, Yoshinobu Uozumi and Kazuki Nagasawa

掲載巻号 : *Biol. Pharm. Bull.* 47, 739–749 (2024)

Webサイト : https://www.jstage.jst.go.jp/article/bpb/47/3/47_b23-00756/_article/-char/ja

■薬品製造学分野の南部寿則教授、友原啓介講師の論文が「*Chemical Communications*」の Volume 60, No. 34 の表紙カバーとして選定されました

薬品製造学分野の南部寿則教授、友原啓介講師の論文が「*Chemical Communications*」の Volume 60, No. 34 の表紙カバーとして選定されました。

掲載雑誌 : *Chemical Communications*, Volume 60, No. 34

タイトル : Ring expansion of spirocyclopropanes with stabilized sulfonium ylides: highly diastereoselective synthesis of cyclobutanes

著者 : Hisanori Nambu, Yuta Onuki, Kana Aso, Momoka Kanamori, Keisuke Tomohara, Kiyoshi Tsuge, Takayuki Yakura

Webサイト : <https://pubs.rsc.org/en/content/articlelanding/2024/cc/d3cc06033>



■病態生理学分野の吉澤正人さん（在学時:博士課程4年次生）の論文が、Cancer Genomics & Proteomics Volume 21, Number 1, January-February 2024 の表紙カバーとして選定されました

病態生理学分野の吉澤正人さん（在学時:博士課程4年次生）の論文が、Cancer Genomics & Proteomics Volume 21, Number 1, January-February 2024 の表紙カバーとして選定されました。

掲載雑誌 : Cancer Genomics & Proteomics Volume 21, Number 1, January-February 2024

タイトル : Depletion of DNTTIP2 Induces Cell Cycle Arrest in Pancreatic Cancer Cells

著者 : Masato Yoshizawa, Atsushi Shiozaki, Eishi Ashihara

Webサイト : <https://cgp.iiarjournals.org/content/21/1.cover-expansion>

■日本薬学会第144年会において、本学の学生31名が学生優秀発表賞を受賞しました

2024年3月28日（木）～31日（日）に開催された「日本薬学会第144年会」において、本学の学生31名が学生優秀発表賞を受賞しました。

【学生優秀発表賞（口頭発表の部）】

受賞者：代謝分析学分野 博士課程4年次生 面川 真里菜

演 題：抗腫瘍効果を有する新規糖連結白金錯体と191Pt標識体の合成および生物学的評価

演 者：面川 真里菜、木村 寛之、初川 雄一、河嶋 秀和、塚田 和明、屋木 祐介、内藤行喜、安井 裕之

受賞者：微生物・感染制御学分野 3年次生 大島 侑奈

演 題：多剤耐性 *Acinetobacter baumannii* による細菌性肺炎を近赤外発光でライブイメージングする

演 者：大島 侑奈、山口 大貴、鴨志田 剛、山田 倫暉、井阪 真悟、植山 景丞、奥田 絢音、株本 眞希、小林 まみ、上中 真生、北田 昇雄、森屋 亮平、牧 昌次郎、八尋 錦之助

受賞者：生化学分野 博士課程3年次生 池田 有紀

演 題：脱SUMO化酵素DES11ノックダウンによる標的候補タンパク質の発現減少

演 者：池田 有紀、中山 祐治

受賞者：細胞生物学分野 5年次生 鹿井 遥花

演 題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスのウイルス性DNAポリメラーゼは複製に重要な保存領域をもつ

演 者：鹿井 遥花、祝迫 佑紀、藤室 雅弘

受賞者：病態生化学分野 5年次生 巽 友理奈

演 題：ゲノム編集法により作製した染色体欠失マウスを用いたダウン症モデルマウス脳での銅蓄積責任遺伝子座の同定

演 者：巽 友理奈、斉藤 美知子、高田 修治、河下 映里、山川 和弘、秋葉 聡、石原 慶一

受賞者：薬理学分野 博士課程3年次生 劉 康

演 題：マウスマスト細胞の活性化に関わるMrgprファミリーの探索

演 者：劉 康、田中 智之

受賞者：薬理学分野 博士課程2年次生 田中 里奈

演 題：アトピー性皮膚炎マウスのストレス誘発掻痒における脳内ニューロステロイドの関与

演 者：田中 里奈、今林 怜矢、岸 美羽、山根 優、田中 智之、藤井 正徳

受賞者：薬物治療学分野 5年次生 多田 佳鈴

演 題：TNBS誘起大腸炎モデルにおけるPAD4を介した細胞外トラップの関与

演 者：多田 佳鈴、菅原 彩羽、田上 瑛梨奈、斉藤 美知子、安田 浩之、松本 健次郎、加藤 伸一

受賞者：公衆衛生学分野 博士課程4年次生 北川 翔大

演 題：新規 Wnt/ β -catenin 経路阻害物質 linderapyrone の標的分子探索

演 者：北川 翔大、松本 崇宏、斉藤 洋平、中山 祐治、芦原 英司、渡辺 徹志

受賞者：臨床薬剤疫学分野 5年次生 辻村 沙椰
演 題：リツキシマブ投与患者における悪性腫瘍の発現状況および併用薬の影響
演 者：辻村 沙椰、冢瀬 諒、村木 優一

受賞者：病態生理学分野 博士課程4年次生 清水 大器
演 題：公共データベースより同定したPOLD1を標的とした悪性胸膜中皮腫細胞に対する抗腫瘍効果の検討
演 者：清水 大器、石橋 未来、戸田 侑紀、細木 誠之、芦原 英司

【学生優秀発表賞（ポスター発表の部）】

受賞者：生薬学分野 5年次生 荒木 康佑
演 題：薬用植物由来セスキテルペンラクトン cynaropicrin とその関連化合物の膠芽腫幹細胞に対する
駆逐作用と構造活性相関研究
演 者：荒木 康佑、原 みなみ、浜田 翔平、松本 崇宏、中村 誠宏

受賞者：薬化学分野 5年次生 俵 龍太郎
演 題：新規求電子的アミノ化剤の開発
演 者：俵 龍太郎、浜田 翔平、古田 巧、小林 祐輔

受賞者：薬化学分野 5年次生 石田 渚
演 題：超原子価ニクトゲン化合物によるアルケンの分子変換反応
演 者：石田 渚、西田 佑希、浜田 翔平、古田 巧、小林 祐輔

受賞者：薬品物理化学分野 5年次生 松尾 茉祐
演 題：ABCA1による高密度リポタンパク質形成に一価不飽和脂肪酸含有リン脂質が与える影響
演 者：松尾 茉祐、南波 憲宏、長尾 耕治郎、斎藤 博幸

受賞者：薬品物理化学分野 博士課程1年次生 河野 弘樹
演 題：パーキンソン病 α シヌクレインの凝集・線維化に対する脂質膜組成の影響
演 者：河野 弘樹、南波 憲宏、扇田 隆司、長尾 耕治郎、斎藤 博幸

受賞者：薬物治療学分野 博士課程3年次生 山口 大貴
演 題：グラム陰性菌による細菌性肺炎を近赤外発光ライブイメージングで可視化する
演 者：山口 大貴、鴨志田 剛、大島 侑奈、山田 倫暉、川久保 駿、井阪 真悟、植山 景丞、奥田 絢音、
上中 真生、森屋 亮平、北田 昇雄、中野 竜一、矢野 寿一、牧 昌次郎、八尋 錦之助、加藤 伸一

受賞者：シナジーラボ 5年次生 安藤 ももな
演 題：ヒトiPS細胞由来ミクログリア前駆細胞と大脳皮質神経または脳オルガノイドの共培養系における
A β 誘発細胞応答性の解析
演 者：安藤 ももな、西村 周泰、原田 考輝、山田 志歩、岩崎 良太、高田 和幸

受賞者：生化学分野 4年次生 定仙 大志
演 題：Aurora B阻害はv-Src発現細胞の非アポトーシス性細胞死を誘導する
演 者：定仙 大志、幸 龍三郎、齊藤 洋平、中山 祐治

受賞者：生化学分野 4年次生 中村 歩加
演 題：DNA損傷によるEphA2の発現上昇が細胞周期に及ぼす影響
演 者：中村 歩加、小幡 佳嵩、幸 龍三郎、齊藤 洋平、中山 祐治

受賞者：生化学分野 4年次生 川路 彩夏
演 題：紡錘体形成チェックポイント制御分子のsiRNAスクリーニング
演 者：川路 彩夏、幸 龍三郎、齊藤 洋平、中山 祐治

受賞者：病態生理学分野 博士課程1年次生 法山 康太
演 題：人参由来成分KPU-230はエストロゲン受容体 β を介して粘液線毛クリアランスを活性化する
演 者：法山 康太、細木 誠之、藤堂 暢久、岩本 和佳奈、中村 誠宏、田宮 暢代、茂田 昌樹、
戸田 侑紀、高山 浩一、芦原 英司

受賞者：生化学分野 5年次生 柳田 さくら
演 題：アミノ酸トランスポーターLAT1はアミノ酸輸送非依存的に細胞分裂を支持する
演 者：柳田 さくら、幸 龍三郎、齊藤 洋平、中山 祐治

受賞者：薬物治療学分野 6年次生 木下 真緒
演 題：TRPM2のTh1/Th17誘導を介したトリニトロベンゼンスルホン酸（TNBS）誘起マウス大腸炎の病態における寄与
演 者：木下 真緒、中本 智大、松本 健次郎、森 康生、安田 浩之、加藤 伸一

受賞者：細胞生物学分野 5年次生 砂野 誠
演 題：Cystinによる中枢神経再生機構の解析
演 者：砂野 誠、関根 勇一、藤室 雅弘

受賞者：代謝分析学分野 5年次生 山田 幸奈
演 題：ビタミン類、アミノ酸、アミンを配位子に用いた水溶性亜鉛錯体による糖化反応抑制作用のスクリーニング評価
演 者：山田 幸奈、内藤 行喜、西林 妃菜、八木 雅之、安井 裕之

受賞者：薬物動態学分野 5年次生 西村 響子
演 題：SOX療法時の時間治療導入による治療効果改善の可能性
演 者：西村 響子、筑紫 康人、田中 拓実、河瀬 真治、柴田 敏之、伊藤 由佳子

受賞者：臨床腫瘍学分野 5年次生 増田 真帆
演 題：新規アセトゲニン誘導体のヒト肺がんA549細胞担癌マウスにおける抗腫瘍効果
演 者：増田 真帆、土佐 菜月、森 昌也、安藤 翔太、茂山 千愛美、小島 直人、飯居 宏美、中田 晋

受賞者：臨床薬学教育研究センター 5年次生 加藤 友唯
演 題：高知県におけるかかりつけ薬剤師業務の現状と今後の課題
演 者：加藤 友唯、今西 孝至、石崎 宏人、阿部 恭宜

受賞者：シナジーラボ 5年次生 奥野 結衣
演 題：マウスにおける放射性ヨウ素標識酸化LDLを用いた動脈硬化巣の検出
演 者：奥野 結衣、河嶋 秀和、井澤 満、中谷 純菜、武田 麻友子、石原 慶一、秋葉 聡、高田 和幸

受賞者：臨床薬学分野 5年次生 山田 奈月
演 題：PARP 阻害薬耐性ヒト乳癌細胞株の転移能に及ぼす低酸素環境の影響
演 者：山田 奈月、吉田 梨紗、徳武 陽渚、廣林 柊吾、村山 友菜、辻本 雅之、西口 工司

※学年は受賞当時

■本学創立140周年記念ロゴマークについて薬事日報に掲載されました

本学創立140周年記念ロゴマークについて、薬事日報（2024年4月17日）に掲載されました。



■赤路学長の取材について薬事日報に掲載されました

赤路学長の臨床教育に関する取材について、薬事日報（2024年4月26日）に掲載されました。



■本学合唱部（ユーベルコール）の活動について朝日新聞に掲載されました

本学合唱部（ユーベルコール）の活動について朝日新聞（2024年5月27日）に掲載されました。

掲載記事については本学公式Webサイトよりご覧ください。
<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/>



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

* 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2024年3月～2024年5月にご寄附をお寄せいただいた方々

< 卒業生・同期会等（五十音順）>

猪塚 康良	黒岩 屹	張 賢二
猪塚 静香	坂野 勝	土居 通靖
糸井 朋子	佐々木美音	中森 省吾
宇野 文夫	塩川 和子	羽田 勇司
大賀 弘一	進藤 広彦	林 智香子
小野田昌昭	高崎 昭	松本 静子
國貞 眞司	高美 時郎	

< 保証人（五十音順）>

太田 成英	永原 吉浩
坂本 茂城	山下 友通

< 企業・団体・一般（五十音順）>

(株)茨木春草園	桑形 広司
----------	-------

< 法人役員・評議員・職員等（五十音順）>

秋葉 聡（教員）	木曾 誠一（理事長）
乾 賢一（名誉教授）	近田 厚子（理事）

(2024年5月31日現在)

